



新年のご挨拶

久留米市社会福祉協議会

会長 中島 年隆



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、本会が取り組んでおります地域福祉活動の推進にご理解とご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

昨年を顧みますと、1月の能登半島地震に始まり、各地で発生している大雨災害などの自然災害が思

い起こされます。

本会といたしましても、関係機関と連携し、9名の職員を述べ71日間、能登半島へ派遣いたしました。現地では、災害ボランティアセンターの運営支援を担ってまいりましたが、この被災地での活動を通してあらためて、非常時の支え合いの基盤となる「つながり」や「地域の絆」、「ボランティアの力」の重要性を認識したところでございます。

また、コロナ禍以降、今なお続く物価高騰による生活困窮の課題や、SNSを介して若者が関わった闇バイトによる事件報道などに触れるたび、人と人、人と地域のつながりが希薄化し、孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化していると痛感しております。

そのような中、久留米市とともに策定した「くるめ

支え合うプラン」を基に、一人ひとりが役割や生きがいを持って、互いに助け合いながら暮らせる「地域共生社会」の実現に向け、支え合い推進会議やいきいきサロンの運営支援、法人後見などの権利擁護を推進するとともに、本年度4月から新たに自分らしく人生を終えられる「人生あんしん事業」を開始しております。

さらに、本人や世帯の複合化した生活課題に対応すべく、相談支援と地域づくりの一体的な展開に努めるとともに、フードドライブなどの食料配布や子ども食堂といった活動へ支援の輪を広げているところでございます。

本年も住民の皆さま、そして関係団体や行政と連携しながら、地域福祉の積極的な推進を図り、「支え合うところあふれるまちくるめ」の実現を目指してまいります。今後も、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第52回久留米市社会福祉大会

記念講演

「地域共生社会を目指した地域づくり
—新たなケアによる地域デザイン—」

講師

鹿児島大学 法文学部
法経社会学科地域社会コース
教授 金子 満氏

今回の第52回久留米市社会福祉大会の記念講演では、金子先生に講演をいただきました。

これから私たちが「地域共生社会」の実現を目指していくうえで、たくさんの方のヒントをいただきました。

「人はそもそも個性があつて、多様な存在。長所だけでなく欠点も大切にしながら、お互いがパズルのピースのように認め合い生きていく。誰にも迷惑をかけない、欠点のない人間を目指してきたので、自立した個人は人に頼れず、助けてが言えなくなってしまう。欠点があるからこそ、誰かとつながることがができる。お互いの存在が響き合いながら相乗効果や新たな価値を生み出すような、協働から響動（シンフォニー）へ：そんな価値観の修正が必要です。」と、締めくくられました。



記念講演の様子

